

## 令和5年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 ( 深草 幼稚園 )

### 教育目標

#### 豊かな心をもち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成

### 年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然とかかわり心が動き、様々な「気付き」が生まれた。一つの小さな「気付き」を大事にしながら、感じたことを教師や友達に伝えることで、さらに次の「気付き」につながり興味や関心が高まったり、人とのかかわりが広がったりしていった。今後は子どもの「気付き」の過程が、「3つの資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」との関連をよくとらえながら、保育の充実をはかりたい。そのために引き続き、園内の自然環境の工夫と共に環境構成をつねに見直しながら再構成していく。</li><li>・未就園児クラスの活動や預かり保育に充実により、幼稚園における地域の子育て支援センターとしての役割を一定果たすことができた。次年度も「健やかな子どもの育成」のために未就園児・在園児保護者の子育てへの不安や希望に寄り添っていきたい。地域に本園の活動をさらに周知できる工夫をしていきたい。</li><li>・小学校1年生と対面での交流を基に、「言葉での伝え合い」を視点に互いの教育について連携を進めることができた。今後も交流時の1年生と園児の人数格差を工夫しながら交流を進めたい。また、地域の小中学校との連携を基盤にしながら、地域で子どもを育てる取り組みに参画しつつ、未就学児施設との横のつながりを模索し、「架け橋プログラム」の実践を進めていきたい。</li></ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・深草地域の自然を保育に取り入れる活動がより充実してきている。働き方改革も進めていきながら、保育・教育活動がより充実したものになるよう、地域の力を活用してほしいし、今後も地域と幼稚園をつなぐ支援をしていきたい。</li><li>・ソニー教育財団での優秀賞受賞など本園の保育への取組が評価されたことは大変喜ばしい。子育て支援の活動も含め、本園の取組を広く発信していくことを願う。</li></ul>

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年8月28日	学校運営協議会「なかよし会」
最終評価	令和6年3月8日	学校運営協議会「なかよし会」

### (1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

#### 具体的な取組

- ・教師自身が、身近な自然環境に日常から目を向け、子どもと一緒に感じたり、気づいたり、疑問に思ったりしたことを周囲に広め、園全体の学びとなる環境をつくっていく。
- ・保育の中での振り返りや導入などにICT機器を活用し、子どもの好奇心、探究心をより豊かに育む

ICT 機器の在り方を探り、取り組む。

- ・地域の自然に触れ経験したことが園内での遊びや生活につながる保育を展開する。
- ・学年の枠を越え、園全体で共に感じ合い、つながり合えるよう、環境構成に必要な情報を教職員と共有し、連携する。
- ・園庭や遊戲室で多様な運動遊びを楽しめる場をつくり、教師も共に楽しみ、遊びのモデルとなる。
- ・幼稚園きょうだいが互いを知り合い、親しみを感じる取り組みを行事や保育の中で展開する。
- ・クラスで集う場で、絵本の読み聞かせや遊びの振り返りや話し合いなどを通し、相手の話に興味をもち、喜んで聞く姿勢が育つよう工夫する。
- ・諸感覚を通して心豊かに感じる体験ができるよう、身近な自然環境や可塑性のある素材に触れ、思いを表出できる環境を整える。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の振り返りによる環境構成の見直しや日々の保育カンファレンスによる子どもの姿のみとり
- ・園内のエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿のみとり
- ・保育活動充実のための ICT 活用での振り返り

アンケート

「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」

「幼稚園は、子どもが自然を身近に感じるための環境を工夫している」

「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」

「子どもは、幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている」

「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」

「子どもは、幼稚園で絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」

「幼稚園は、子どもが様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている」

「子どもは、感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の振返りによる環境の再構成を積み重ね、様々な自然に触れたり体を動かして遊べるよう工夫した。
- ・竹林に複数回でかけたり「みつけバック」に見つけた草花などを入れたりして地域の自然に親しんだ。
- ・ICT を観察に用いたり、科学センターと ZOOM でつながったりした。
- ・地域への散歩のほか園内で遊ぶ機会を通して幼稚園きょうだいとの温かいかかわりが見られる。5歳児は4歳児に思いやりある振る舞いが見られる。
- ・総合遊具のほか、竹馬や三角馬、プール遊びなど体を動かすことを十分に楽しむことができた。特に4・5歳児ともにしつぽ取りを楽しんだ。
- ・砂・泥・色水・泡・粘土・絵の具など様々な素材に触れる遊びを体験し、感触を楽しんだ。思いのままに楽しんだが、思いを素直に表出すること今後も続けていきたい。

アンケート (A: 大変そう思う B そう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる (A83.3% B16.7%)

園は自然を身近に感じるための環境を工夫をしている (A93.3% B6.7%)

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる (A83.3% B16.7%)

幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている (A56.7% B43.3%)

絵本を見たり、お話を聞いたり見たりを楽しんでいる (A56.7% B40% C3.3%)

	<p>園は様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている (A73.3% B26.7%)</p> <p>感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている (A46.7% B46.7% C6.6%)</p>
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チョウの幼虫を育て羽化まで見届けたり、ダンゴムシを飼育しどんな餌が好きか考えたりなど小さな命に触れ、自然を身近に感じ、愛着の芽生えが見られた。繰り返しの体験から得た気付きを友達と共有し、納得したり、確信したりなど学びを深める機会となった。また自然ならではの予測できない事象に不思議がったり、疑問に感じたりなどして思考が広がる姿が見られている。</li> <li>・見つけた地域の自然を「みつけマップ」に落とし込んだり、虫の餌となるものを家庭から持ってきてもらったりして、子どもの興味を保護者と共有することで保護者にも園や地域の自然への関心が高まった。アンケートにも自然にかかる項目は A 評価が高い。保護者にも園の取組が伝わり、園と家庭との相乗効果で子どもの自然への関心がより広がった。</li> <li>・幼稚園きょうだいに関するアンケートでは5歳児の方が「大変そう思う」の評価が多い。昨年度の経験により、子どもが興味をもって取り組んでいることがうかがえる。後期は行事も多い。引き続き、取組の意義や成果、課題を子どもの姿を丁寧に見取りながら、幼稚園きょうだいが互いに思い合えるような環境、かかわりを進めていきたい。</li> <li>・体を動かして遊ぶ機会を大事にしてきた。アンケートにも高評価が表れている。さらに、四肢を十分使った遊びの経験や、継続した運動的な遊びを取り入れ、しなやかな心と体の育成を図ると共に、素材に触れて遊べる環境も意識していきたい。</li> <li>・友達に思いを伝えたり友達の思いを聞いたりする「言葉での伝え合い」の力はまだこれから伸びていく力もあるが、個々に対して、まだ十分思いを出し切れていないのではないか、もっと自分の思いを十分出し切れるのではないか、との現状と可能性を感じている。「素直に思いを表出する」こともアンケートで「大変そう思う」より、「そう思う」の方が多く、「あまりそう思わない」の割合が他の項目より多く出ていることから、人とのかかわりの中で、もっと感じたり思ったりしたことを、様々な表し方で表現してほしいという保護者の願いのあらわれが伺える。園としてもありのままの思いを言葉を含めて安心して表せることを大事に取り組んでいきたい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内や地域の自然にふれ、子どもが心を動かし、感じたり、気付いたりしたことを伝えられるよう、園外保育を計画したり、環境構成をしたりする。</li> <li>・様々な素材に触れて思いのまま遊んだり、思いを表現したりする活動を行う。</li> <li>・自分の力を発揮したり満足感や充実感が味わえたりできるよう、体を動かして遊ぶことを継続して行う</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週案の振り返りによる環境構成の見直し</li> <li>・日々の保育のカンファレンスによる子どもの姿のみとり</li> <li>・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿のみとり</li> </ul> <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内や地域の自然に親しみを感じることはとても良いし、これからも大切にしてほしい。苗やさんへの参加や七夕の笹の提供にも協力した甲斐がある。また、「気付き」や「つながり」に着目して研究していることの報告を受け、幼稚園がしっかり取り組んでいることが良く分かった。今後も子どもの育ちのために頑張ってほしいし、協力していきたい。</li> </ul>

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・園内外で様々な自然環境にふれられるよう保育を計画し、週案を振り返ったり、日々の保育を振り返り、互いに語り合うことで、子どもの気づきがさらに深まったり広がったりできるよう、環境を再構成し改善を行った。
- ・エピソード研修を行い子どもの内面の理解や育ちの見取りを行った。
- ・地域へ歩いて出かけ自然に触れて遊ぶ園外保育を実施。ドングリをたくさん見つけたり道端の草花に関心を寄せる姿が見られた。
- ・氷や雪などその時しか味わえない自然現象を逃さないよう保育に取り入れた。
- ・園内の栽培物の葉や茎を使って遊んだり、収穫物を食したりして、園内の自然環境に目を向け、関心を深める保育に取り組んだ。

アンケート (A: 大変そう思う B そう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる (A71% B29%)

園は自然を身近に感じるための環境を工夫している (A87.1% B12.9%)

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる (A71% B29%)

幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている (A61.3% B38.7%)

自分の思いを話したり先生や友達の話を聞いたりする (A64.5% B32.3% C3.2%)

絵本を見たり、お話を聞いたり見たりを楽しんでいる (A58.1% B38.7% C3.2%)

感じたり思ったりしたことを表そうとする (A54.8% B41.9% C3.2%)

幼稚園は様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている (A74.2% B25.8%)

自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バッタを飼育する中でどの葉をよく食べるか考えたり、バッタの死を通して飼いたい気持ちとバッタの命について正解のない問い合わせを考えるなど、園内の自然を身近に感じながら遊び生活を送ることができた。</li> <li>・地域での園外保育（稻荷山・宝塔寺・京教大・深草中など）から持ち帰った自然物を遊びに取り入れたことを契機にドングリや落ち葉に存分に触れ、質感を感じながら量や数に関心をもち、様々な気付きを基に、繰り返し試しながら遊んだ。</li> <li>・自然とのかかわりの中で子ども一人一人の「気付き」が、様々に試す姿や人に「気付き」を伝える姿につながり、新たな「気付き」が生まれたり友達に「気付き」が広がったりしながら幼児なりの主体的で対話的な学びが生まれた。</li> <li>・アンケート結果では子どもの自然とのかかわりの項目が前期よりA評価が減少しB評価に移行している。教職員アンケートでは前期と同じ9割がA評価であり、園が環境構成を工夫していることも高評価であった。保護者にとっては、秋冬という季節が、春夏に比べ、一見自然との触れ合いが比べ少なく感じられたかもしれないが、子どもの「気付き」を保護者に十分発信できていなかったとも考えられる。教師が見取った子どもの気付きや育ちを保護者に分かりやすく伝えたい。また、園内環境の再構成の余地はまだまだある。教材研究など教師自身も自然への学びを深めながら、子どもが豊かな体験をし、十分に心を動かして遊べるよう努めていきたい。</li> <li>・自らの「気付き」を人に伝える、人の「気付き」に興味関心を寄せるなどを丁寧に支えてきたことや、様々な素材に触れて遊ぶ経験から、自分の思いを表したり伝えたりする力も育ちつつある。アンケートでも友達や幼稚園きょうだいとのかかわり、話したり聞いたりの項目ではA評価が若干増加している。今後も子どもの思いに寄り添いながら、思いを表し伝える力を育んでいきたい。</li> </ul>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの体を動かして遊ぶ項目ではA評価が減りB評価が増えた。幼稚園としては、竹馬や三角馬へのさらなるチャレンジ、運動会に向けての活動や毎日のマラソンなど、子どもが体を動かして活動する場を前期以上に保障してきたが、体を動かして遊ぶことを“楽しむ”という点では、後期に入って、苦手意識を感じる子どもがいたことなどが評価に現れたのではないか。子どもが意欲的に体を動かし多様な体の動きができる遊びを探りながら取り組み、健やかな身体の成長を促したい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の自然環境を身近に感じることができる環境構成の工夫</li> <li>・子どもの興味関心に応じた環境の再構成</li> <li>・自ら意欲をもって楽しく体を動かして遊ぶ活動内容の工夫</li> <li>・一人一人の気づきが広がり深まる中で伝え合いつながり合うことを楽しむ保育の推進</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋は十分すぎるドングリがあり園外保育で拾ったドングリだけではなく、教職員でも集め、子どもたちが十分に遊べる環境を整えていることが子どもの意欲につながっている。</li> <li>・ちょっと難しい事や初めての事にも挑戦しようとする意欲を感じる。そのような子どもの力を育んでいくことを今後も期待する。</li> <li>・研究報告、ソニー教育財団への実践論文の優秀賞受賞など意欲的に保育に取り組んでいる結果が評価されており喜ばしい。今後も保育の中で地域の人や自然などの活用する場を支援していきたい。</li> </ul>

## (2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小で交流・連携を行う際『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』や『3つの資質・能力』を手掛かりとしながら、かけ橋期のカリキュラムを意識し、2年間で育てたい力を掲げ、交流の事前事後の協議では、常に焦点化した話し合いとなるようする。</li> <li>・自園の研究保育を近隣の幼保小に公開し、幼児期の育ちや学びの共有を図る。</li> </ul>
	<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前事後の協議の実施と『10の姿』『資質・能力』などの視点での協議内容</li> <li>・研究保育の公開と協議の実施と内容</li> </ul> <p><b>アンケート</b></p> <p>「子どもは、小学校との交流を楽しんだり、あこがれをもったりしている」</p>

	<p><b>中間評価</b></p> <p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との交流の年間計画を立てる際、かけ橋プログラムについて小学校と共通理解を図り、時間を有効活用しながら密に連携を進めていくよう、teamsの活用を始めた。また幼稚園側が入園後の1年生の授業を参観したり、幼小共に研修動画視聴をしたりした後に話し合いをもち、互いの今の子どもの実態や願いに基づき、年間通じて子どもの姿をみとっていく共通の視点を挙げ、その視点をもとに子どもの姿を見つめ、交流前後の協議をしていくことを共有した。</li> <li>・研究保育の公開を11月に行うことを地域の小学校、未就学児施設に広報した。</li> </ul> <p><b>アンケート</b> (A:大変そう思う 53.3% B そう思う 40% C あまりそう思わない 6.7%)</p> <table border="1"> <tr> <td>自</td><td>分析 (成果と課題)</td></tr> </table>	自	分析 (成果と課題)
自	分析 (成果と課題)		

自己評価	<p>連携の意義や架け橋プログラムについて相互理解を図り、幼稚園・小学校双方で今年度は「10の姿」の「言葉による伝え合い」に視点をあてたことで、交流の事前協議において、視点に沿って交流の意義や活動内容、導入などについて、幼小が密に話し合いを進めていくことができた。</p> <p>アンケート結果については、1学期の小学校との交流が1回だったこともあり5歳児以外の保護者には関心が低かったと分析する。今後さらに幼小連携の取組を発信する必要がある</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流時の動画を見合い、そこから子どもの育ちや課題、願いなどを共有し、事後協議で出た子どもの見取りをもとに、今後の交流の在り方を協議し連携を深め積み上げる。</li> <li>11月の研究保育の公開を通して幼児教育を発信し、架け橋期の育てたい資質能力について意見交換する。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流の事前事後の協議の実施と『10の姿』などの視点での協議内容</li> <li>研究保育の公開と協議の実施と内容</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>小学校1年生の人数と5歳児の人数には大きな差があるが、交流を工夫し、互いにとって良い交流となることを期待したい。</p>

#### 最終評価

自己評価	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生と5歳児との人数格差が大きいため、4歳児も共に交流を行った。</li> <li>体育館でしきり取りをしたりダンスを見合ったりなど、体育科での交流を行ったほか、音楽発表会リハーサル見学、秋の自然で遊ぶ、就学・進級を控え期待感をもちながらの交流などを行った。交流では『10の姿』のひとつ、「言葉による伝え合い」に視点を置き、交流の計画・振り返りを行った。</li> <li>公開保育・研究報告会を地域の小学校、就学前施設に案内し、参加を募った。2小学校からの参加があり、幼稚園での教育活動を参観いただいた。</li> </ul>
	<p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流に際して「言葉による伝え合い」に視点を置いた事前事後の協議により、幼・小互いの交流のねらいを明確にし、ねらいに応じた活動内容の計画・実践ができ、子どもの育ちを話し合うことができた。teamsの活用や連携主任間での協議など協議の時間を捻出し取り組んだ。連携主任だけではなく各学校園の担任全員での協議はより充実していた。今後は架け橋プログラムについての見解についても協議していきたい。</li> <li>幼稚園の公開保育を小学校の先生に見ていただくことができ、小学校校内研修に参加させていただき、互いの教育活動への理解が進んだ。公開保育は近隣の就学前施設に案内をしたが、参加はなかつた。しかし、今後も市立幼稚園が保育を公開することを継続して行い、小学校との縦のつながり、就学前施設との横のつながりをつくるきっかけにしていきたい。</li> <li>交流時の幼稚園児と1年生との人数格差は4歳児を含めても大きく、今後も課題である。近隣就学前施設も共に交流できれば互いの子どもにとってプラスになると考える。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10の姿に視点を置いた交流活動の計画・事前事後の協議の実施と、架け橋プログラムについて互いに理解を深める</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も小学校及び就学前施設に公開保育や苗やさんの活動など市立幼稚園を知つてもらう活動を案内する</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園でも小学校でも「なかよし会」がある。子どもたちが安心して就学できるよう見守りたい。「なかよし会」としても幼稚園と小学校との架け橋でありたい。</li> <li>・就学前施設にはそれぞれのカラーがある。尊重し合い無理のない範囲でつながればよい。</li> </ul>

### (3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園3歳児クラスの預かり保育開始に伴い、3歳児の心身の負担に配慮し、状況に応じて午睡や休憩ができる環境を整える。</li> <li>・異年齢児が交わり合いながら、一人一人が安心して過ごし、一緒に遊んだり、過ごしたりしてかかわることを楽しめるような玩具の準備、一日の流れについて、担当者と担任で連絡・検討する。</li> </ul> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育週案の振り返りによる子どもの姿のみとり</li> <li>・担当者と担任との連携の振り返り</li> <li>・アンケート</li> </ul> <p>「子どもは預かり保育に安心して参加している」</p> <p>「未就園3歳児の預かり保育や8時から18時までの預かり保育は子育ての支援につながっている。」</p>
--	--

### 中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児の午睡についても保育室や絵本室など適した環境を模索し昼食後一定時間の休憩時間を設け午睡を促した。夏季休業中の預かり保育では、4・5歳児も暑すぎる夏を健康に過ごすため昼食後の休憩時間を設け、午睡がしやすい環境を整えた。</li> <li>・3学年が同じ場で遊ぶためそれぞれの発達に応じた玩具やその配置の工夫を行った。</li> <li>・子どもの遊びの様子や健康面について担当者と担任が連絡連携し、家庭にも必要に応じて様子を伝えた。</li> </ul> <p>アンケート</p> <p>安心して参加している…大変そう思う 63%、そう思う 37%</p> <p>未就園3歳児の預かり保育は子育て支援につながっている：大変そう思う 86% そう思う 10% そう思わない 4%</p>
--	--

自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食後に一定時間休憩・午睡の時間を設け、ある程度定着し、午睡が必要な子どもが眠れることで安定した園生活を送ることができた。しかし、午睡が不要な子どもへの対応など担当者の配置の工夫が必要である。</li> <li>・小さなパーツの玩具の扱いが学年によって全く異なるため環境を工夫することで、3歳児が落ち着いて遊ぶようになった。また、4・5歳児の遊びを間近で見ることで玩具の扱いも少しずつわかれり、3学年が落ち着いて一緒に遊ぶようになってきている。</li> <li>・アンケートから保護者は預かり保育に安心して参加していると考えているが、4歳児の中には、新たな環境に慣れることを優先に考え、まだほとんど利用していない子どももいたり、まだ長時間幼稚園</li> </ul>
------	--

	<p>にいることに、戸惑い、不安定な子どももいたりする。まずは毎日の預かりの時間を楽しみに参加できるような環境や、安心できる居心地がよい雰囲気を心がけると共に、保護者の就労等や家庭事情により、毎日参加する子どもが、マンネリ化しないよう、遊びの内容や場づくり、教材選びなどを工夫していきたい。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5歳児が楽しめる玩具と3歳児が楽しめる玩具を意識した遊びの場の環境構成をする。</li> <li>・ボール遊び、絵本の読み聞かせなど子どもが楽しみにできる企画や、季節に応じた遊び（毛糸など）を取り入れる。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週案による振返りと発達に応じた玩具の出し方など環境構成の見直し</li> </ul> <p>アンケート 前期と同じ項目</p>

学校関係者評価
---------

#### 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細かなパートのある玩具の出し方を工夫することで3歳児も落ち着いて遊ぶ姿が増えてきた。また、LAQで4・5歳児がつくったものを3歳児に渡したりしたことも大事に扱う気持ちにつながった。</li> <li>・各学年ともに、簡単なルールがある遊び（ボードゲームや将棋など）を担当者とまたは子ども同士で遊ぶようになってきた。　・冬季は毛糸を使った遊びを取り入れいつもと違う材料を楽しんだ。</li> <li>・なかよし会による読み聞かせやボール遊び、昔遊びなど3歳児への配慮を行いながら実施。</li> </ul> <p>アンケート</p> <p>安心して参加している (A74.2% B22.6% C3.2%)</p> <p>未就園3歳児の預かり保育は子育て支援につながっている (A74.2% B25.8)</p>
--	--

自己評価
------

	<p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期は3歳児の育ちと遊ぶ場の環境構成の工夫もあり、それぞれが安心して過ごせる預かり保育の場になっていた。アンケートでも「安心して参加」の項目にA評価が増加した。C評価も若干あったが、家庭で過ごしたい幼児もいる。子どもの素直な気持ちも受け止めたい。</li> <li>・ウサギとのかかわりや自然物を使った遊びなど教育課程内の活動ともつながりながら遊びを工夫したり、預かり保育とクラス担任との連絡連携も丁寧に行い保護者への伝達事項が抜け落ちないよう心掛けたことも預かり保育の安心感につながっていると考える。</li> <li>・なかよし会による遊びの提供は預かり保育の内容を彩り、充実につながっている。また、京都アメリカ大学コンソーシアムからの留学生受け入れにより、英語に触れる機会を持つことができた。ご縁があれば今後も学生力を活用したい。</li> <li>・次年度は未就園児3歳児の在籍人数が増え預かり保育利用者も増加することが見込まれている。特に前期は担当者と他の教職員との連絡連携をしっかりと健康で安心安全な運営を心掛けたい。</li> </ul>
--	--

--

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な預かり保育の場をつくるため、担当者と担任との連携を密にとる。また、3歳児の様子など必要に応じて担当者をフォローできる教職員体制を整える。</li> </ul>
--	---

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<p>・絵本読み聞かせでは、子どもたちは本当によくお話の世界を楽しんでくれていた。そのこともうれしいが、どんな絵本がいいかと絵本を選ぶ時間も楽しい。ボール遊びや昔遊びも童心に帰って一緒に遊ぶことをこちらも楽しんでいる。年数回実施することで子どもの成長も感じることができ嬉しい。これからも継続したい。</p>

#### (4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談クラスたまご組（0～3歳児親子）、ぶちひよこ組（2歳児親子）ひよこ組（未就園児3歳児）を実施し、発達に応じた遊びや活動の場や、子育ての悩み（トイレ・食事など）を話せる場を提供する。</li> <li>・在園・未就園児保護者同士が子育ての喜びや苦労を共有し、つながる場として「ほっこり子育てひろば」を行う。</li> </ul>

中間評価	各種指標結果
------	--------

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談開催日（4月～8月） ひよこ組（週5日毎日開催） ぶちひよこ組 39回 延べ 325組 たまご組 31回 197組参加</li> <li>・ほっこり子育てひろば 4月 5月 7月分 12人 ワークシート「いつくしむ」誕生会参加保護者にて実施 ワークシートの項目から話が広がった</li> <li>・たまご組ぶちひよこ組「トイレのことを話そう」「食事のことを話そう」開催 18組親子参加</li> </ul>

自己評価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>主に在園児対象の誕生会後のほっこり子育てひろばを継続するほか、子育てのことを気軽に話せる機会をたまご組・ぶちひよこ組にて開催する。</p>

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	(前回と同様)・教育相談開催回数と参加者
	・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての不安を話したり、幼稚園・小学校などこれからのこととも聞きたいこともある。子育て中の人に同士が話す場は大事にしたい。PTAも現役保護者として協力できる。</li> </ul>

### 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談開催日（8月～2月）           <ul style="list-style-type: none"> <li>ひよこ組（週5日毎日開催）登録者数11人</li> <li>ぶちひよこ組45+18回延べ272組 たまご組45回延べ403組参加</li> </ul> </li> <li>・ほっこり子育てひろば11月1月2月分 16人参加 誕生会参加保護者にて実施</li> <li>・たまご組ぶちひよこ組「幼稚園ママと話そう」2回実施</li> </ul>

自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひよこ組では里帰り出産親子など年度途中の家庭事情による未就園児家庭を受け入れた。子ども子育て支援法に当たはまりにくい事情の家庭への支援につながったと考える。</li> <li>・教育相談（未就園児クラス）にやってくる家庭は安心して子どもが遊ぶことができる場を求めている。また、クラス時間外でも就園や子の育ちについて様々な相談や質問があり、保護者の不安を聞き取り寄り添うことで、地域の子育て支援を担う役割を少しは果たせたと感じている。</li> <li>・ひよこ組では保護者間のつながりもより広く深くなり、送迎時に互いに気軽に子育てのことを話す様子が見られる。ぶちひよこ組・たまご組においても、幼稚園で会う回数が増えるにつれ保護者同士、子ども同士がつながっていった。特にぶちひよこ組の2歳児では子ども同士が顔と名前を覚え互いに呼び合ったり同じ遊びを楽しんだりするようになった。そのため物の取合いも増えたが、保護者同士が互いの子どもを認め合い、注意しあえる関係性を築いている家庭もある。</li> <li>・来園した未就園児家庭は良い笑顔をして帰っている。いかに幼稚園の子育て支援を知ってもらい足を運んでもらうか、の工夫が必要。PTAによる催しや幼稚園ママと話そうの開催時期の検討。</li> </ul>

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の未就園児家庭の方が気軽に来園し子育ての悩みを担当者や保護者間で話せる場の提供</li> <li>・広報の工夫（深草支所はぐくみ室への情報提供の継続・ポスター掲示・インスタグラムやHPでのわかりやすい園紹介の発信など）</li> </ul>

### （5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふかふか竹林」や稻荷山へ年間を通してでかけて自然に触れ、地域への愛着や地域の人への親しみをもてるよう園内で活動を振り返る。</li> <li>・学校運営協議会を中心に、地域の方々と関わる機会（苗屋さん・絵本読み聞かせなど）を設け、地域の方々に子どもへの願いや活動内容の意味などについて伝え、本園の教育活動への理解を促す。</li> </ul>

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・地域への園外保育（散歩を含む）や園外保育後の保育での子どもの姿のみとり
  - ・保護者や学校運営協議会を含む地域の方の意見の聞き取り
  - ・アンケート
- 「子どもは園外保育ででかけた深草地域の自然や場所、名称（ふかふか竹林など）を知っていますか？」

中間評価

各種指標結果

- ・地域への園外保育では「みつけバック」を活用し、そこに見つけた自然物をバッグに入れ、帰園後にバックの中を見直すことで見つけたものや行った場所へ思いを寄せていた。また、大きな周辺地図をつくり、見つけたものをそこに並べ振り返り「みつけマップ」をつくった。
- ・地域を何度も歩き、よく通る道で「ここから涼しいな」「ここに〇〇がある」などその道や場所のことを知る言葉が聞かれるようになった。
- ・苗やさんや七夕の活動に地域のかたが参加する機会に子どもとかかわり園の教育活動を知つてもらうことができた。

アンケート：深草地域の自然や場所、名称を知っている（A70% B30%）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・竹林への園外保育など地域を歩く中で、いろいろな気付きをすることで、子どもたちは地域を知り、自然への関心が高まったり愛着を感じたりすることができた。
- ・みつけマップを保護者がみて、通園途中に見つけたものを「ここかな」と子どもと話すなどして園と家庭とがつながって地域への関心が高まった。また、竹の成長を紙を切って長さを貼るなど目に見える形で示すことで保護者や地域の方にも見てもらえ、子どもたちの気づきを知つてもらうことができた。

分析を踏まえた取組の改善

後期は前期と同じ場（稻荷山）にて季節の違いを感じる。また、ドングリ拾いなど新たな場へ園外保育に出かけ広く地域を知る機会をつくる。

秋冬のみつけマップをつくる

園外保育の活動と園内の遊びがつながることで活動が広がり、豊かな経験となるよう工夫する

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・園外保育の活動と園内の遊びや生活とのつながりのみとり
- アンケート
- ・子どもは、園外保育を通して、深草地域の自然や場所、名称（ふかふか竹林など）を知つたり、興味をもつたりしている。
  - ・子どもは、深草地域のいろいろな人（なかよし会・竹林・科学センター・小中学校などの人）に興味をもつてかかわっている

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・稻荷山への引率補助など安全面への協力を行う。
- ・ポップコーンパーティーや園内展の参観、預かり保育での絵本読み聞かせやボール遊びなど園児の活動にかかわる中で子どもたちの成長を感じることができる。こちらもかかわりを楽しみにしている。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育と園内の保育をつながりを意識した保育を計画し、週案を基に振り返った。園外保育で体験したことを取り返る場(みつけマップ秋冬版)や園外保育から持ち帰ったし自然物を遊びに用いる事ができた。</li> <li>・地域の大学での園外保育ではゲストティーチャーにより様々な草花遊びを知り、豊かな経験ができた。</li> </ul> <p>アンケート：深草地域の自然や場所、名称を知っている (A67.7% B29% C3.3%)</p> <p>　　地域の人にかかわっている (A54.8% B41.9% C3.3%)</p> <p>　　園は地域の人とつながる機会を設けている (A80.6% B19.4%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育で地域を歩く、途中で拾ったドングリを遊びで使う、つくった凧を地域の中学校校庭で揚げるなど、園の中と外を遊びや活動でつなぐことで地域への関心や思いがつながっていった。</li> <li>・地域の自然文化の象徴でもある稻荷山は観光客も増加し園外保育で一層の注意が必要であるが、なかよし会のサポートにより安全に実施でき、四つ辻での眺望は山に登った満足感となった。</li> <li>・収穫祭になかよし会をお招きすることで、自分たちが取り組んでいることを地域の人に喜んでもらい、より自己有用感や肯定感が増した。</li> <li>・「ふかくさばぶちゃん」(筍の生長過程を見届けてきた竹)を切出し園内で飾り 2 階まで届く高さを感じ、門松にして季節の行事を楽しむなどふかふか竹林での年間を通した活動の充実が図られた。また、カミキリムシであろう穴の開いた伐採木を提供いただいた。次の関心、活動へつないでいきたい。</li> <li>・アンケートでは前期と大きくは変わらないが、園が地域の人とつながる機会を設けていることは評価が上がっている。子どもの深草地域への関心度が保護者にも伝わっているのではないだろうか。今後も地域に愛され見守られている実感ができるような活動を展開し、地域を大事に思う気持ちを持つ子どもの育成に取り組みたい。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までのふかふか竹林での取組を参考に深草支所地域力推進室が計画される SDGsの取組(森のようちえん)に参加する。なかよし会、深草支所との連携を図りながら、子どもたちの経験がより豊かになるよう保護者を巻き込んで取り組み、幼児なりに SDGsを意識できる活動を展開したい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も稻荷山への園外保育が安全に行えるよう引き続き見守り活動を続けたい。</li> <li>・3月のお楽しみ会では、収穫祭などで出会った子どもたちの成長をとても感じられた。</li> <li>・森のようちえんや、今春のひな人形支所展示などのように、園と深草支所とのつながりを今後も支援していきたい。</li> </ul>

## (6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が一人一人の力を発揮し、情報を共有し、円滑な園運営を行う</li> </ul>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の開始・終了時刻を明確にし、事前に資料に目を通すなど、時間を意識した進行を行う。</li> <li>・ノーギャラリーのポスター掲示と職場での周知</li> <li>・連絡アプリ活用による登園前の電話対応減少や保護者配布物印刷の一部削減。同時に保護者への発信方法の見直し</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料の事前配布の状況と時間内での進行状況</li> </ul>

- ・ノー残業デーの周知と状況

- ・アンケート

「連絡アプリと紙（月行事一覧など）を併用した手紙の内容は伝わっていますか？」

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・会議資料事前配布は概ねできており職員会議は時間内に進行できている。企画委員会については保育にかかる内容について話し合いが多岐にわたり時間を超えることもある。
- ・ノー残業デーの周知をしているが、当日の職員朝礼での意識づけが不足している。

### アンケート 手紙の内容は伝わっているか？（A60% B36.7% C3.3%）

自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・ノー残業デーの周知や職員会議のは会議時間内進行は概ねできている。企画委員会は保育内容にかかる活動の在り方など吟味に時間がかかる傾向がある。大事な検討事項は丁寧に行うが会議終了時刻を意識していく。
- ・園から保護者への発信をアプリ中心にすることで、印刷配布の効率化が図られた。また、カレンダー式の月行事は紙媒体で、写真などがあるふかふかだより（子どもの姿）はアプリで行うなど発信方法の区分けも周知できてきた。しかし、アプリ（携帯の画面）上でのおたよりの内容の熟知がアンケートの数値に表れていると考えられる。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・会議時間の開始と終了時刻を明示し、時間を意識した会議の進行をする

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・会議終了時刻の確認

#### アンケート（前期と同じ）

学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・学運協（なかよし会）の連絡もアプリが導入され、次第に使い方に慣れてきている。保護者も次第に慣れていくだろうが、フォローが必要な場合もあるだろう。伝わりやすさの工夫は必要だろう。

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・会議開始・終了時刻を明示することで時間を意識した会議進行となった。が、研究活動においては終了時刻がずれ込むこともあった。

### アンケート 手紙の内容は伝わっているか？（A77.4% B19.4% C3.2%）

### 連絡ボードはクラスの活動や翌日の準備物の把握に役立っている？（A87.1% B12.9%）

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・時間を意識した議事進行は概ねできていた。各人に起る様々な諸課題も会議以外の場で日常のコミュニケーションにより概ね共有でき対応することができた。しかし、保育について語り合う研究活動においては時間管理が難しい場面もあった。
- ・連絡アプリの活用によりペーパーレス化が進んだ。保護者へ情報伝達について、前期アンケートよりも後期アンケートの結果が良かったのは、保護者がアプリでの連絡に慣れたこともあるが、各クラスの手書きボードや、対面での降園時にアプリの確認を促すなど、アプリとその他の情報伝達を組み合わ

	<p>せる工夫を行った結果だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリ活用において「お知らせ」か「メール」か、預かり保育スケジュール設定など、教職員が時折操作ミスをすることもあった。操作手順の理解や伝わりやすい表記について学んでいきたい。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わりやすさ、明確な伝達を目指し、アプリ活用を進める。</li> <li>・保育充実のための環境整備など、担任を中心に教職員の連携・協力体制を進める。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよし会の連絡も連絡アプリの活用が定着してきた。が、添付文書よりもメール本文に直接日時・場所を記載するほうが分かりやすい。丁寧さよりも簡潔で伝わりやすい発信を心掛け業務改善につなげていってほしい。</li> </ul>